

Activity Report

梶井 睦

活動日：2022年4月27日（水）	活動日数：2日目
小学校：Preyboeng 5年生	人数：12人
1. 内容	
13:00～13:45 ①野菜と果物の名前と色の名前の提示 黒板に野菜と果物の写真11枚を貼り出し、その名前と色の名前を提示、みんなで声を出して発音する。（シーケンシャル・ランダム）	
②トマト・ジャガイモ・バナナの歌を聞かせる 梶井が振付の動作を行う（下手過ぎて自己嫌悪） 音楽を流し、梶井がデモダンスを行う 音楽を流さず、梶井の動作を真似してもらう 音楽を流して、みんなでダンスをする（3回）	
13:45～14:00 休憩	
14:00～14:35 ③乗り物の名前を提示して、発音練習。 （シーケンシャル・ランダム）	
14:35～14:45 今日の復習 写真の野菜・果物の名前と色の名前を書く 完全ブランクだと難しいので一部をヒントとして提示	
2. 目的	
・前日同様、①②③とも、学習者たちの英語理解度がわからないので、英語理解度を知る目的で行った。	
3. 使用教材	
・① 野菜・くだものカード ・② YouTube のトマト・ポテト・バナナの歌、Bluetooth スピーカー	
4. 実施	
① a. 野菜・果物を見せて英語の名前を知っているかを聞いた →身近なバナナとかオニオンを知っている学習者が数人いたが、他の野菜名や果物名は殆どわからなかった。	
b. 野菜・果物を見せてそれらの色の名前を知っているか聞いた →半分くらいの学習者が答えられた	
c. 野菜・果物の英語名を提示した →クメール語発音に引きずられた発音をする学習者が多かった。	
② a. トマト・ポテト・バナナの歌を聞かせる →それらの名前は既に提示しているので、それらの何かをするのだという事は理解できたようでした。	
b. 梶井がトマト・ポテト・バナナの歌のダンス振付デモを実施	

Activity Report

梶井 睦

- c. 学習者と梶井と一緒にトマト・ポテト・バナナの歌のダンスを実施
→梶井のダンス振付デモがあまりにも下手だったので、学習者が戸惑っているようだった。
 - d. 音楽に合わせて学習者・梶井と一緒にトマト・ポテト・バナナの歌のダンスを実施
→梶井の反応が遅いと学習者から逆に指摘を受けた。
- ③
- a. 車・飛行機などの交通手段のイラストを見せて、各交通機関の英語名を提示
→クメール語にひきずられた発音する学習が若干名いた。
 - b. 全員で再度、各交通機関の英語名を斉唱
 - c. 英語名を隠し、ランダムにイラストを指定して英語名を答えてもらう
→自分の好きな交通機関名は答えられたが、それ以外はあやふや
 - d. 全員で梶井と一緒に各交通機関の名称を言う

復習

野菜・果物のイラストを見て、名称と色名を答えるシートをやってもらった
完全ブランクでは難しいので、単語の一部をヒントとして与えた
→学習者1名は完全に解答できたが、他の学習者は部分的に、残りの学習者には
難しかったので学習者同士で教えあうようにした

5. 学習者の反応（1～5）

- ① : 3 → 4 → 4
- ② : 4 → 3 → 3
- ③ : 4 → 3 → 2
- 復習: 1 → 2

Activity Report

梶井 睦

6. 問題点

- ① : 学習者に身近な野菜や果物については興味を示して前向きな姿勢を見せたがそうでないものについては、少し興味がないようだった。
→学習者にとって身近な野菜や果物は何を調査する必要がある
 - ② : トマト・ポテト・バナナのダンスについては、学習者の方が反応が早くノリがいいので、提示した梶井の方が反応の遅さや間違いを指摘された
→ダンス系という梶井の最も苦手分野を克服するには時間がかかるので、ダンスをプロジェクターや iPad で見せなど、見せ方を工夫すべきだった
 - ③ : A4 一枚にたくさんの交通機関のイラストが載っていたので、後ろの席の学習者にはちょっと見辛かったようだ
→せめて 1 枚に 4 交通機関位にすべきだった
→イラストの名称の見せ方が他の教材と異なったので、統一すべきだった
 - ④ : 完全ブランクにスペルを自発的に書かせるのはまだ無理
→学習者のレベルに応じた対応不足
- 全体 : 前半は比較的集中力も高く、やる気を引き出せたと思われるが、梶井の下手なダンス以降、学習者が楽しむというより、梶井のダンスの矯正に気が行ってしまった。

7. 改善策

- ① : 事前に身近な野菜や果物を調査し、集中力を持続させるように工夫が必要
発音については、クメール語での発音との違いをしっかりと認識して、その点を意識しながら矯正するようにする。
目的 : 興味を持続させる
 - ② : 音楽やダンスなど体を動かすのは有効な手段ではあるが、梶井がデモをやるのではなく、他のメディアやソースを使う
目的 : 本来の英語学習以外に意識が行かないようにして、ダンスや音楽に集中させる
 - ③ : 他のレッスン内容との教材の（見せ方等）整合をはかる
目的 : 見せ方をパターン化して、学習者に何をすればよいかをすぐにわかるようにする
見せるイラストの大きさに注意する
目的 : 見にくいと集中力が落ちてしまうのを防ぐ
- 復習 : 学習者のレベルに応じた対応が必要
目的 : 正解を書いてもらうのではなく、英語に興味をもってもら